特別調査レポート

2019 年 4 月 19 日
日本銀行横浜支店

ラグビーワールドカップ™開催が横浜市経済に与える影響について[1]

～ スタジアム観戦者が横浜市内で支出する観光消費額と、その波及効果は約100億円 ～

■ 本年9月20日（金）から11月2日（土）までの44日間に亘り、ラグビーワールドカップ2019™日本大会が開催される。大会期間中には、全国各地で合計48試合が開催される予定になっており、このうち横浜市内（横浜国際総合競技場）では、9月21日（土）のニュージーランド－南アフリカ戦を皮切りに、7試合が行われることになっている。

■ ラグビーワールドカップは、注目度の高い国際的な大規模スポーツイベントであるため、大会期間中には国内外から多くの観戦客が試合会場に訪れ、経済面へのプラス効果が見込まれている。大会開会まで半年を切り、横浜市を含む全国各地で大会開催に向けた様々な各種イベント等が拡がりをみせている中、今般、ラグビーワールドカップ開催が横浜市経済に与える影響（経済波及効果）を試算した。

■ 試算に際しての前提条件は別添のとおりであるが、本試算は、横浜市で開催される7試合を実際に横浜国際総合競技場で観戦する来訪者が市内で支出する観光消費額と、その波及効果に「限定」したものである。また、一定の仮定の下で行ったものであるため、相当な幅をもってみる必要がある。

—— インフラ整備費用、大会運営費用、警備費用、パブリックビューイング会場への来訪者による観光支出、関連イベントや出場チームが行う事前キャンプに係る各種収益、関連グッズ販売など、本試算の対象としていない経済波及効果も多数あると思われるが、そうした効果は本試算には織り込まれていない。

■ このような形で、ラグビーワールドカップ開催が横浜市経済に与える影響を試算したところ、その規模は「98.1億円」となった。

▽ ラグビーワールドカップ開催が横浜市経済に与える影響

	経済波及効果	直接効果	一次波及効果	二次波及効果
合　計	98.1億円	68.4億円	18.2億円	11.5億円
国内客	49.9億円	34.5億円	9.7億円	5.7億円
海外客	48.2億円	33.9億円	8.5億円	5.8億円

（注）直 接 効 果：横浜市で開催される7試合を実際に横浜国際総合競技場で観戦する来訪者が支出する観光消費額のうち、市内で生産される財・サービスにかかるもの。
一次波及効果：直接効果の対象となる財・サービスの生産に必要な原材料等の増産など域内産業にもたらされる生産誘発額。
二次波及効果：直接効果および一次波及効果によって生じた雇用者所得の増加が消費に向けられることによって域内産業にもたらされる生産誘発額。

[1] 本稿は、鈴木克樹、加藤宏隆が執筆しました。

■ 今後、横浜市を中心とする神奈川県では、ラグビーワールドカップ2019™日本大会だけではなく、来年には東京2020オリンピック・パラリンピックといった国際的な大規模スポーツイベントの開催も予定されている。ラグビーワールドカップ2019™日本大会の開催が呼び水となり、インバウンドを含めた観光客が更に増加し、横浜市経済および神奈川県経済の持続的な成長に繋がっていくことを期待したい。

【参考】横浜市（横浜国際総合競技場）で行われるラグビーワールドカップ2019™日本大会

日　時	試合種別	対戦カード		
9月21日　（土）	プール戦	ニュージーランド	V	南アフリカ
9月22日　（日）		アイルランド	V	スコットランド
10月12日　（土）		イングランド	V	フランス
10月13日　（日）		日　本	V	スコットランド
10月26日　（土）	準決勝1	準々決勝1勝者	V	準々決勝2勝者
10月27日　（日）	準決勝2	準々決勝3勝者	V	準々決勝4勝者
11月 2日　（土）	決　勝	準決勝1勝者	V	準決勝2勝者

以　上

本件に関する問い合わせ先
日本銀行横浜支店総務課
電話：045―661―8111（代）
メールアドレス：yokohama@boj.or.jp

（別添）

ラグビーワールドカップ™開催が横浜市経済に与える影響（試算対象と試算方法等）

1．試算対象

■ 今回の試算は、横浜市で開催される7試合を実際に横浜国際総合競技場で観戦する来訪者が市内で支出する観光消費額と、その波及効果に「限定」したもののみを対象としている。

2．試算方法

■ 試算に際しての前提条件として、①想定観戦客の延べ人数（横浜市内で開催される7試合分）、②国内・海外別、宿泊・日帰り別(注1)にみた想定観戦客延べ人数、③国内からの想定観戦客と海外からの想定観戦客の観光消費単価を仮定。具体的な算定方法は以下のとおり。

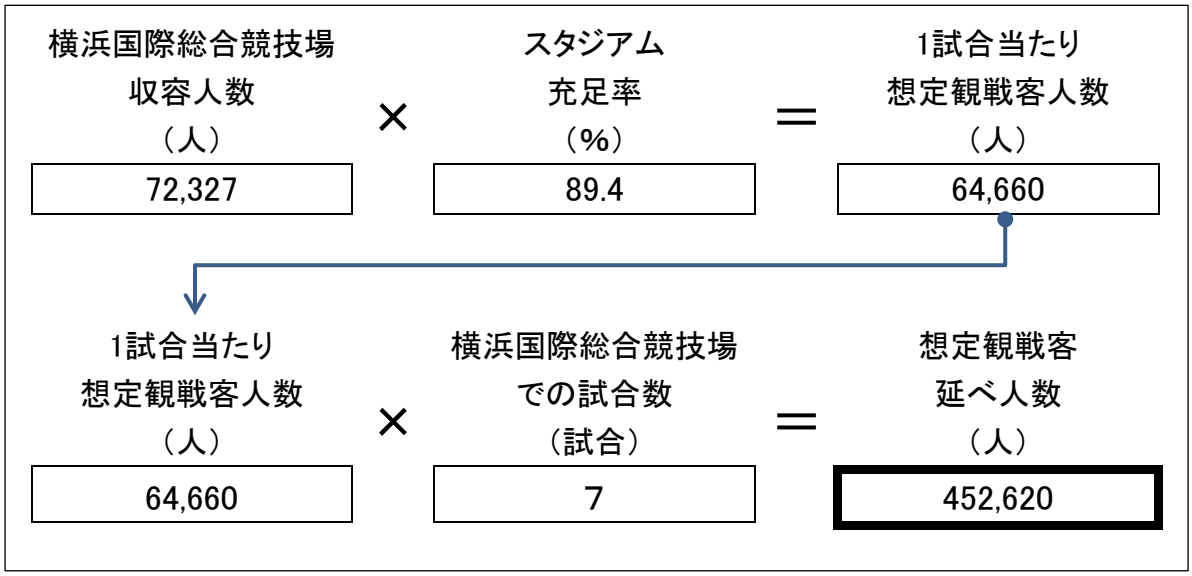
（注1） 本稿では、宿泊客を「横浜市内で宿泊する観戦客」、日帰り客を「横浜市内で宿泊しない観戦客（例えば、東京都内に宿泊、首都圏近郊から日帰りで来訪など）」と定義。

（1）想定観戦客の延べ人数（横浜市内で開催される7試合分）

■ 横浜国際総合競技場の収容人数は「72,327人」。入場総人数をスタジアムの収容人数で除した値を「スタジアム充足率」と定義。試合数が今大会と同じ48試合となった2003年以降の4大会の「スタジアム充足率の平均値」を試算したところ、「89.4％」となった。今大会の「スタジアム充足率」も同水準であると仮定し、同競技場の収容人数に同率を乗じ、『1試合当たりの想定観戦客人数』を試算。

■ 同競技場では、プール戦、決勝トーナメントを合わせて計7試合が開催される予定であるため、『1試合当たりの想定観戦客人数』に「7（試合）」を乗じる形で、『想定観戦客延べ人数』を試算。

（参考図Ⅰ）



（2）国内・海外別、宿泊・日帰り別にみた想定観戦客延べ人数（同）

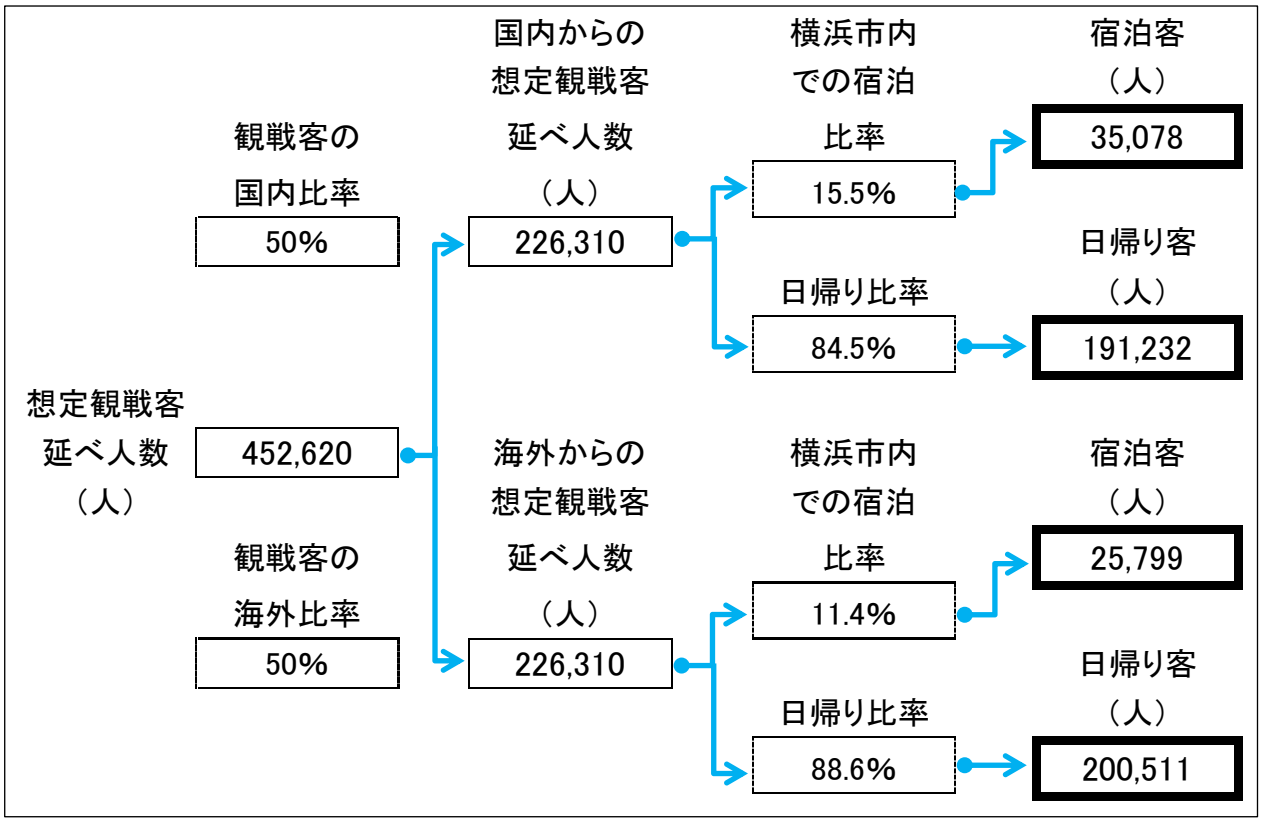
■ 全48試合の総チケット販売枚数が約180万枚で、このうち今大会の準備・運営を行う公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会が販売しているチケット枚数は約半分。総チケット販売枚数に占める同委員会販売チケット枚数の割合（＝50％）を「観戦客の国内比率」とし、これから求められる「観戦客の海外比率」を算出のうえ、上記（1）により算出した「想定観戦客延べ人数」にそれぞれの比率を乗じる形で、『国内・海外別の想定観戦客延べ人数』を試算。

■ 「国内からの想定観戦客延べ人数」のうち、『横浜市内のホテル等に宿泊する（国内からの想定観戦客）延べ人数』は、「平成29年度集客実人員調査及び観光動態消費動向調査報告書」（平成30年横浜市文化観光局）にある「横浜市内で宿泊する比率」（＝15.5％）を乗じる形で、試算。

■ 一方、『海外からの想定観戦客延べ人数』は、「想定観戦客延べ人数」から「国内からの想定観戦客延べ人数」を差し引く形で算出。また、海外からの観戦客は、全てシティホテル(注2)に宿泊すると仮定。そのうえで、横浜市と東京23区に所在するシティホテルの全客室数に占める横浜市内シティホテルの客室数の比率（＝11.4％）を、「横浜市内で宿泊する比率」と仮定し、これを「海外からの想定観戦客延べ人数」に乗じる形で、『横浜市内のホテル等に宿泊する（海外からの想定観戦客）延べ人数』を試算。

（注2） 本稿では、東京2020オリンピック・パラリンピック立候補ファイルの五つ星ホテルをシティホテルと定義。

（参考図Ⅱ）



（3）観戦客の観光消費単価

①国内からの想定観戦客の観光消費単価

■ 「旅行・観光消費動向調査　平成29年年間値（確報）」（観光庁）の第13表（宿泊の有無（2区分），旅行目的（3区分），年齢（9区分），男女（2区分）・旅行形態（2区分）別　延べ旅行者数 ― 国内旅行）および第18表（宿泊の有無（2区分），旅行目的（3区分），旅行形態（2区分），品目（小分類）別旅行消費額 ― 国内旅行）を用いて試算。

■ 具体的には、第18表の宿泊旅行の「観光・レクリエーション」に記載されている「旅行中」の内訳項目を、交通費、宿泊費、飲食費、土産物代・買物代、入場料・施設利用料、その他の6項目に振り分けて集計。その際、「飛行機（国内線）」および「新幹線」については、横浜市内での支出として扱うのは適当でないと判断し、交通費から除外。これらの項目を第13表の「宿泊旅行」の「観光・レクリエーション」に記載されている延べ旅行者数で除して、6項目の観光消費単価を試算。日帰り旅行の「観光・レクリエーション」についても同様の方法で、6項目の観光消費単価を試算。

②海外からの想定観光客の観光消費単価

■ 「訪日外国人消費動向調査　集計表　2018年（平成30年）暦年【確報】」（観光庁）の参考7（【一般客（観光・レジャー目的）】 国籍・地域（21区分）別　平均泊数）および参考10（同　国籍・地域（21区分）別　費用別1人1回当たり旅行消費単価（パッケージツアー参加費内訳含む））を用いて試算。

■ 具体的には、参考10の全国籍・地域の消費単価に記載されている調査項目（飲食費、交通費、娯楽等サービス費、買物代、その他）を、参考7の全国籍・地域の全体の平均泊数（5.9泊）で除して、各項目の消費単価を試算。その際、交通費から「航空（日本国内移動のみ）」および「Japan Rail Pass」については、横浜市内での支出として扱うのは適当でないと判断し、交通費から除外。なお、宿泊費は、2.（2）で試算したシティホテルの平均宿泊価格(注3)を用いて試算。

（注3） 平均宿泊価格は、横浜国際総合競技場における第一試合目が開催される9月21日に宿泊すると仮定し、各ホテルの最も低い料金の単純平均を用いている。ただし、「4月9日時点」で各ホテルがホームページに掲載している「2名1室の1泊当たりの価格」を参照しており、同時点で情報を確認することができなかった一部ホテルは除いて試算している。

3．経済波及効果の求め方

■ 上記2．により設定した前提条件を、横浜市が提供する「経済波及効果分析ツール(注4)」に入力し、国内からの想定観戦客、海外からの想定観戦客別に、直接効果、一次波及効果、二次波及効果を試算。それぞれのシミュレーション結果を合算し、これを『ラグビーワールドカップ開催が横浜市経済に与える影響額』（＝スタジアム観戦者が横浜市内で支出する観光消費額と、その波及効果）とした。

（注4） 詳細は、横浜市のホームページ（https://www.city.yokohama.lg.jp/）を参照。

以　上